

牧草と園藝

昭和33年秋季特集号

雪印のたね

夕張部長沼町字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社
中央研究農場

第六卷・第六号

昭和三十三年五月十五日第三種郵便物認可
昭和三十三年六月一日毎月一回発行

6

雪印種苗株式会社

よいたねて酪農繁栄

天崎 正雄

乳と蜜の流るる里!! この言葉は平和な理想郷を象徴するに十分な魅力を持つている。また大砲かバターかと言えば、平和を願望する国民の切ない心境を表現する合言葉と言えよう。このやうに酪農は日本の経済や平和な社会生活とは切り離すことのできない関係をもつてゐる。

酪農がすくすくと伸びてゐる姿を見てゐると、如何にも農村が豊かに成長してゐると思ふ。それどころか日本全体の力が増し平和が身近かに訪れてきたという感じに打たれるのは蓋し筆者のみではあるまい。反面酪農不振のためにしよんぼりと牛を手放す農家の風景に接するのは、恰かも昔不況に喘ぐ農山漁村の可愛い娘さんが売られてゆく姿にも似通つた感じがして、何とも言えぬ悲哀を覚えるものである。

緒茲二、三年の統計を見ると、日本の酪農は全くすさまじい勢で伸びたのに驚くが、現状では牛乳とその製品が若干もて余し気味であるため、そのしわ寄せが乳価に響いてくる。また近年にない濃厚飼料高という二重の悪条件で、すぐ酪農経営そのものがぐらつく位だから、まだまだ日本の酪農は地についでいないので、この先どうなることだろうというのが酪農関係者の脳裡に低迷する一致した不安感であらう。

而し幸なことに酪農は、単なる農政上の問題ではなく、日本経済五カ年計画の一環として取上げられ推進されることに、国策的決定がなされた事は非常な飛躍であり、喜ばしいことと言わねばならぬ。このように政府が酪農振興にテコ入れをしだした機会に酪農家も乳業者も、それぞれの分野において改善に努力を傾注し、日本の酪農界を、生産から消費の面にわたつて一貫して安定したものとしなければならぬと思ふ。

酪農家の方々も色々困難もあり、また工夫と努力をされてはいるが今一步のふみ込みが足りないと思ふ。購入飼料が一寸値上りすると赤字だ。また乳価が一寸下がると採算割れだというのでは駄目で、まだ本当に自分の酪農経営といふことはできない。

これからの酪農経営を安定へ!! そして繁栄へと導くものは何か? 私は古くさい話だと受けとられるかもしれないが、「合理的な飼料作物の増産とそ

の利用にある」と強調したい。よい自給飼料が豊富に生産されてその利用がうまくゆけば、乳牛の健康は増進して耐用年数も伸び、空胎もなくなる。飼料費は著しく低減する。労力の問題や経営規模との関係も調整がつくし、酪農経営が黒になるか、赤になるかの重要課題はすべて解決されるのである。本場に地についた酪農、経営の中の酪農は一頭の牛から搾る牛乳の量で云々すべきものではない。勿論牛個々の能力に差があることは否定しないが、同じ能力の牛について考えた場合には、飼料の耕作を主体とした経営面積から割り出して、一反歩当り何石の生産があつて、幾何の牛乳代になつた。そこで労力や地力その他の条件を勘案して黒か赤かを検討しなければならぬと思ふ。このような見地に立つて黒の酪農にするためには、くさや根菜類、その他青刈などのよい飼料を年間を通じて豊富に給与できる計画の下に反当生産量の増加と飼料価値の高いものを選択栽培すること、適当規模の放牧草地の改良造成によらねばならぬ。

よいたねは榮えるとは古来の名言であるが、従来飼料作物についてはあまり関心が深くなかつた憾がある。而し飼料作物が酪農経営の成否を左右する程重要なものであつて見ればその選択はあつたかにはできない。ではよいたねを選ぶにはどういふ点について留意検討すべきだろうか。

第一には遺伝素質の点で優れているものであること。即ち牧草について考へて見ても種類によつてそれぞれ異つた性能を持つてゐるから用途によつて利用度の高いものを選ぶこと、更に一歩進んでは同じ種類でも品種、系統があつて、早、中、晩熟種は勿論、耐病性、耐寒性、耐暑性など色々特性を持つてゐるからこれらを十分検討の上選ぶこと。

第二には発芽力の旺盛なこと。

第三には生産過程が明瞭であること。

第四には外觀上の問題で、莢雑物が少ないこと。豊満で完熟してゐること、固有の形状と色沢をもつてゐること、乾燥がよいことなどが主なるものである。このように検討したものを選択すればよいがもう一つ大事なことは、国内生産のものにあつては育種―原種―原種―採種生産と一貫した生産機構の整つたところからたねは求むべきであり、輸入種子にあつては相手商社の選び方は日本のそれと同じだが、外国の場合は特に産地や品種系統の明瞭な保証種子であることが絶対的な条件でなければならぬ。また国内への普及に先立つてその適応性の調査も十分行なわれたものでなければ危険である。またよいたねについては安物にのみとびつくことは考えただけでもおそろしい位である。お互心すべきことである。種苗業者としては飽くまでも良心的に、本場によいたねをだしてゆきたいものと、!! よいたねで酪農繁栄を綴るに當つて固く心に誓うものである。(筆者は取締役営業部長)